

## <12月定例会一般質問内容 2018.12.13 実施>

### ○盛岡市立図書館について

- ・耐震診断の結果
- ・今後の整備方針
- ・図書館を含めた周辺地域の今後

### ○食と農のバリューアップ推進事業について

- ・盛岡美食の夜開催後の反響
- ・事業の効果
- ・庁内連携の課題



## 市立図書館について

### 【質問要旨】

- ・市が行った市立図書館の耐震診断の結果の具体的な内容は。
- ・今後の市立図書館の方向性は。
- ・整備方針が固まったのち、市民への意見を集約する機会は考えているのか。
- ・市立図書館が 47 年前に移転された経緯と、以来現在の場所で果たしてきた役割をどのように見ているのか。
- ・今後の市立図書館の在り方をどのように考えているのか。他

### 【答弁内容】－(市長・教育部長)

**Q、今年度行った市立図書館の耐震診断の結果についてお知らせください。**

A、I s 値、建物の構造体の耐震性能を示す指標は、最低値が 0.24 であった。I s 値が 0.3 を下回った建物については、震度 6 強から 7 程度の地震が発生した場合、建物が倒壊し、または崩壊する危険性が高いという状況の評価である。

**Q、早急な対応が必要な状況のようだが、市民の間では建てかえか、大規模改修かはたまた廃止かなど様々な臆測が飛び交っている。今後の市立図書館の方向性についてどのようにお考えかお知らせください。**

A、整備手法として耐震補強を含む大規模改修、または建てかえについて現在検討しているところであり、平成 30 年度中には定めていきたいと考えている。

Q、市立図書館は、もともとは盛岡城跡公園下にあった旧不来方中学校の校舎を利用しており、その後現在の場所に移転してきたと聞いております。移転から47年、これまで現在の場所で市立図書館が果たしてきた役割を教育委員会はどのように見ているのかお聞かせください。

A、以前、市立図書館は盛岡城跡公園下にございました。老朽化が進みまして、書庫や閲覧室が手狭になったと、そういうことで、また城壁の石垣が崩れるおそれがあるといったようなこともありまして、昭和46年に現在の高松地区に移転したものであります。

市立図書館の役割ということでございますけれども、本市におきまして生涯学習を推進する中心的な施設の一つというふうに考えてございます。市民に対して、読書機会の提供はもちろんのこと、移動図書館車の運行、大学と連携した科学談話会の開催、さまざまな分野の講師を招いての講演会などの文化事業を通じまして多くの学びの機会を提供し、地域の皆様を初め多くの市民に愛されてきたものというふうに考えてございます。

また、盛岡市都市計画マスタープランという計画があるわけですが、高松地区を含む上田地域は文教地区であることが示されておりまして、まちづくりの方向の一つに文教地区にふさわしい文化のまちづくりが掲げられ、具体的な内容として図書館と地域のネットワークによる本に親しむ環境づくりを目指しておりまして、文教地区における市立図書館の果たす役割は大きいものというふうに存じております。

Q、図書館を中心に文教地区を築き上げてきた上田、高松地域には、今後も市立図書館はなくてはならないものだと考えますがご所見は？

A、上田地域は、大学、高校等、文教地区という位置づけで、市立図書館はなくてはならない施設だというふうに考えている。あるべき姿ということでございます。図書館法では、市民に対して行うサービスである図書館奉仕のため、さらには学校教育を支援し、家庭教育の向上に資するため、郷土資料を初めとする資料の収集、市民利用の相談、図書館資料の相互貸借や巡回、読書会の開催などが定められておりまして、インターネットを介して手軽に情報を得られる現代社会にありましても、みずから主体的に学ぶ機会を提供し、読書活動を推進するという図書館の役割は、今後も変わることなく重要であるものと考えております。

また、文部科学省におきましては、図書館の設置及び運営上の望ましい基準におきまして、市町村立図書館が提供すべきサービスとして、貸し出し、レファレンスなどのほか、インターネットを活用した情報サービスや地域の課題に対応したサービス、多様な利用者に対応したサービスなどを示しております。この基準を踏まえまして、地域の発展を支える学習、情報拠点として、市民にとって魅力的で役に立つ図書館を目指してまいりたいというふうに存じております。

市立図書館の整備については、47年前に現在の地に移転された経緯と、以来盛岡市屈指の文教地区形成のために果たしてきた役割を鑑み、さらに多くの市民に愛される場所となるような整備方針を策定されたいと強く願います。

# 食と農のバリューアップ推進事業について

## 【質問要旨】

- ・今年度主な取り組みとしている事業の具体的な内容と、それら事業が目的達成に向けてどのような効果が出ているのか。
- ・11/20 に開催された「盛岡美食の夜」について。主な目的と、それに対して効果をどう感じているのか。
- ・今回の企画を今後の事業にどのように活かしていくのか。
- ・市内連携の現状と課題は何か。
- ・SNS をもっと駆使したプロモーション展開を図るべきではないか。他

## 【答弁内容】－(市長・農林部長・市長公室長)

Q、食と農のバリューアップ推進事業について、現在までに行った具体的な内容と、これらの事業が目的達成に向けてどのような効果が出ているのか伺います。

A、もりおかの食と農バリューアップ推進事業につきましては、3本柱で構成されております。まず、1つ目でございますけれども、異業種交流ができるプラットフォーム整備事業ということですが、食や農にかかわる生産者とか飲食店とか加工業者とか、そういった食や農にかかわる主体が交流するポータルサイトを今年12月21日から運用を開始する予定としてございます。この中では、盛岡産を買える店、食べられる店、旬の食材といった情報、また生産者、つくる人の思いやこだわりなどを情報発信いたしまして、異業種間のマッチング、商談機会を提供する場を設けるということにしております。また、盛岡産食材のファンクラブを間もなく結成することとしておりますし、あともう一つは食と農の取り組みを統一的に発信するためのロゴマークとコンセプトを決定いたしまして、それを活用してまいるとなっております。

次に、2つ目でございますが、盛岡産を活用した消費と交流機会の創出支援事業でございます。これにつきましては、今回の盛岡美食の夜を初めといたしまして、盛岡産の収穫体験や試食を行います盛岡産もぐもぐツアー、それから盛岡産の利用拡大の場といたしまして、絆まつりやいしがきミュージックフェスティバルなどへの「morino cafe」というお店の出店を行っております。

3つ目でございますが、6次産業化等スタートアップ支援事業につきましては、農業者等による6次産業化の取り組みに要する初期費用を助成する事業でございます。これにつきましては、女性を中心といたしました6人の事業が採択をされまして、現在スイーツの開発とか、例えばあとはイチゴビールの開発とか、そういったいろいろなおもしろい取り組みが展開をされているというところでございます。

事業の効果でございますけれども、現在数値的なものをちょっと検証中ということではございますけれども、30年度につきましては異業種交流の浸透と消費拡大という目標を掲げておりましたことから、先ほど申し上げた食と農の交流サイトの開設などによりまして異業種交流の基盤ができたこと、それから絆まつりやいしがきミュージック

クフェスティバルの出店とか、美食の夜などを通じまして、盛岡産への愛着や認知度向上、消費拡大などにつながったというふうに今評価しているところでございます。

**Q、先月 20 日に行われました盛岡美食の夜について、開催後の反響とこの事業にかかった総事業費についてもお知らせください。**

A、今回の手応えといたしましては、アンケートの結果を見ますと、6割ぐらいの方がアンケートを書いていたんですけども、91%の方から今回の食事につきましては大変満足、あるいは満足という回答をいただいたところでございます。また、さらに生産者から食材の特徴とか苦労話が語られたことによりまして、盛岡産に対する愛着を持っていただくとともに、見た目も味もすばしかったというふうな感想が多かったところでございまして、今回盛岡産の食に対する関心の醸成がなされたものと存じております。

また、もう一つは、今アンケートの話をしましたが、アンケートの中では、もう一つ自由記載のところがありまして、まだまだ知らない食材でおいしいものがあることにびっくりしたとか、地元のおいしい食材をもっと知らせてほしいというふうな記載もございまして、多くのお客様とか、あるいは熊谷喜八さんに指導を受けたいと思って集まってきたシェフの方々とか、あとは生産者からも自分のつくったものおいしい、おいしいと言って食べられるというのは至福の時というか、そういうふうな声を聞いたところでございます。

もう一つ、総事業費につきましては、トータルで 405 万円ということになってございます。シェフへの謝礼とか、ポスターとか、広告費とか、食材費が大きいんですけども、そういったところでトータル 405 万円ということになっております。

**Q、食と農バリューアップ推進戦略の中に推進体制イメージという項目があり、生産者と農業協同組合などなど、8つの部門の連携についての役割が記されていて、その中に行政機関の役割についても明記されておりますけれども、この行政機関の連携についてはどのようにイメージをすればいいのかお聞かせいただきたいと思っております。**

A、行政機関の連携のイメージについてでございますけれども、例えば県との連携につきましては、本議会で提案してございますカナダへの盛岡りんごの輸出の事業でございますけれども、岩手県と連携をいたしまして、岩手県、J A、盛岡市と連携をいたしまして、現地で P R をしたいというふうに思っておりますし、また先ほど紹介いたしましたもりおかマチナカ商談会につきましては、盛岡広域振興局と商工観光部と農林部で共催して実施をしているということでございます。

また、庁内の連携といたしましては、ホストタウン事業の一環として、例えば水球カナダが来たときに、盛岡産でおふるまいをした、おもてなしをしたわけなんですけれども、そういった連携とか、来年度の盛岡シティマラソンでの盛岡産のおふるまいなど、そういった横断的な連携を図って、食と農をバリューアップさせていきたいということでございます。

**Q、今回の場合、盛岡が売りとするブランド、知名度が高く影響力のある著名人、わかりやすい会のコンセプト、インスタ映えする素材は、シティプロモーションにつながる要素がぎゅっちり詰まっていた会だったのではないかと思う。例えばインフルエンサーとなり得るような専門のライターを招いて、さまざまなサイトで当日の様子を情報発信してもらうということなどもできたのではないのでしょうか？少なくともあの当日の様子、市のフェイスブック、ツイッターな**

どで発信すべきだったと思うが、なされていない。その点が庁内連携の課題ではないかと思いますがいかがでしょうか？

A、連携したPRというようなことで、市長公室としても今回の美食の夜につきましては、10月の市長の記者会見でPRしたり、あるいは広聴広報課のほうのフェイスブックとかツイッター等で事前告知したり、あるいは熊谷シェフにつきましては3月1日号の広報で大きく取り上げてPRしたりというようなことで取り組んでおまして、御指摘ありましたけれども、もっともっと連携を深めればさらに効果が高まったというようなことで、今回絶好の好機だったのかなというふうに思っておりますので、その辺は十分に反省して、今後につなげてまいりたいというふうに思います。

それから、もう一つ、インフルエンサーというふうなお話ありましたので、インフルエンサー、いわゆる世間に与える影響力が大きい人を活用するというふうな意味と捉えておりますけれども、これにつきましては今フェイスブック、ツイッター等、SNSが発達して、こういった時代にあっては極めて効果のある手法というふうに思いますので、同時にどれだけの宣伝効果があるのかというふうな専門的な知見というものもある意味必要なのかなというふうなことで思っておりますので、市長公室のほうでもその辺も十分勉強しながら、各部と連携して効果が高まるように取り組んでまいりたいというふうに思います。

Q、今年度シティプロモーションに関する事業予算は、ブランド宣伝費に関する210万円ほどだったと思います。この予算では色々やりたくても限度があるのではと考えます。情報発信などにおいては、市長公室が専門分野のところなわけですから、ノウハウもたくさんお持ちだと思います。庁内連携をして取り組めば、農林部の事業とはいえ、もともとの予算以上の事業効果を上げることができたのではないかなというふうに思うのですがいかがでしょうか？

A、御指摘のとおりでありまして、各部と連携することでその予算以上の効果が十分高められるのだと思います。市長公室の広聴広報課は広報の全体統括しておりますし、さらに都市戦略室のほうではブランド推進というようなことで、市の司令塔としての役割がありますので、この役割が十分庁内連携するとともに、市長公室の役割が果たせるように、そこは十分に反省しながら、次につながるよう努めてまいりたいと存じます。

食と農のバリューアップ推進事業は、まだまだ低いとされる盛岡産の高品質な農畜産物の認知度を向上させ、その認知度を向上させつつ販路を拡大し、最終的には農業者の所得向上と食関連産業者の活性化を目指して行っている事業と理解しています。一方で、盛岡のブランド食材の現状を見るに、余り将来展望が描きにくいというのが現状ではないでしょうか？ただ食材一つ一つに物語があって、ポテンシャルは十分にあることも事実です。行政ができることの一つに、それらをもっと脚色をしてPRすることなのではないかなというふうに思います。庁内の横軸連携をしっかりと機能させながら、事業がますます活発に進んでいくことを心より願っています。



↑

熊谷喜八シェフのプロデュースにより「盛岡美食の夜」で出されたコースメニューの一部。盛岡のブランド食材(もりおか短角牛・アロニア・黒平豆・行者にんにく・盛岡リンゴ)が使用されました。